



タカネマツムシソウ

発行 一般社団法人 相模原市医師会

## B型肝炎ワクチン

～B型肝炎ワクチンの定期接種化にむけて～

### どうしてB型肝炎ワクチンが必要なのですか？

B型肝炎ウイルス（HBV）による肝炎が持続すると、肝硬変や肝がんとなります。大人がHBVによる肝硬変や肝がんになる多くの原因は、子どものころにHBVに感染したためです。ほとんどの人はHBVを持った（キャリア）母親からお産のときの母子感染によるものですが、それ以外に父子感染などの家族内感染や感染経路の分からないものもあります。これらを防ぐために、WHO（世界保健機構）はすべての生まれた子に対するワクチンを推奨しています。

### B型肝炎ウイルスの感染経路は？

HBVはキャリアの人の血液などを介して感染しますが、それ以外に唾液・涙・汗・鼻水にもウイルスが存在し、感染源となることがあります。アトピー性皮膚炎や皮膚の小さな傷からも感染すると考えられます。レスリングや相撲などのスポーツや、保育園での集団感染も報告されています。また、噛みつきによる感染の報告もあります。

### 今まではどうしていたのですか？

日本では1986年からHBVキャリアのお母さんから生まれた赤ちゃんを対象に、予防処置（ガンマグロブリンとワクチン）による母子感染予防を行ってきました。しかし、これだけでは子どもの感染がすべて防げないことが分かってきました。

### 定期接種化はいつから？誰に？

2016年10月からHBワクチンの定期接種化が決定しました。対象は2016年4月以降に生まれたすべての1歳未満の子どもで、出生後から生後12か月までに接種する（標準は生後2ヶ月から）こととなります。接種回数は3回で、27日以上の間隔を空けて2回、更に初回から139日以上の間隔を空けて3回目を接種します。（図1）

図1 B型ワクチンの接種間隔



WHOに加盟している194か国のうち約182か国については、すべての赤ちゃんを対象としたHBワクチンを定期接種しています。日本もやっと世界標準となります。（図2）

図2 世界のHBワクチン定期接種状況（2009年）



参考（引用）：WHO Immunization coverage with 3rd dose of HepB vaccines in infants, 2009

9月になり、吹く風の中にも少しずつ秋を感じるようになってまいりました。しかしながら残暑がしばらくは続きそうです。お身体を大切にお過ごしください。

今回は『B型肝炎ワクチンの定期接種化』と『癬が歯並びに与える影響』の二つのテーマをとりあげて皆様にお伝えいたします。ぜひご一読いただき、日ごろの健康維持にお役立てください。

### B型肝炎ワクチンの副作用は？

B型肝炎ワクチンの副作用には、発熱・発疹・注射部位の痛み・かゆみ・腫脹・発赤・硬結・吐き気・下痢・食欲不振・頭痛・倦怠感・関節痛・筋肉痛・手の脱力感・アレルギー症状などが5%以下で見られます。また多発性硬化症・急性散在性脳炎・脊髄炎・視神経炎・ギランバレー症候群・末梢神経障害などが報告されていますが、因果関係ははっきりしていません。一般的に子どもは大人に比べ副作用が少ないといわれています。

### いままで受けていない子は接種しなくていいのですか？

B型肝炎ウイルスに感染している人は日本で約100万人と推定されています。

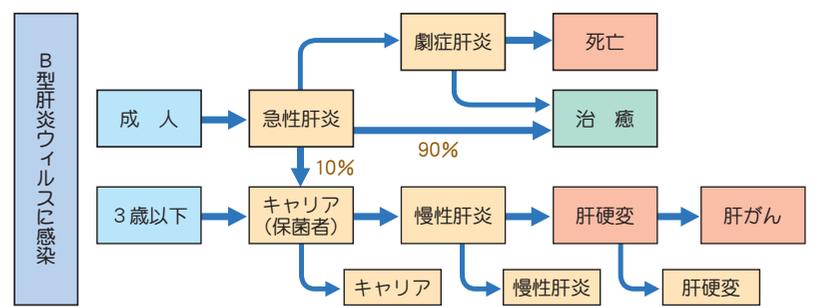
3歳未満の子どもの感染するとキャリアになりやすく、キャリアになると慢性の肝炎になることがあります。慢性肝炎は長期の治療が必要になるばかりでなく、肝硬変や肝がんになることもあります。また急性肝炎となり、劇症化することもあります。

3歳以上の場合は急性肝炎になることが多く、劇症化すると死亡したりすることもあります。また急性肝炎からキャリアになることもあります。

大人でHBVによる肝硬変や肝がんになった人の多くは、3歳までにHBVに感染したためです。そのため、できれば3歳までにB型肝炎ワクチンを接種しましょう。

また、3歳を過ぎてもHBVに感染すると急性肝炎になり、それが治ってもHBVが肝臓に潜んでいることが分かってきました。そのため年齢にかかわらず、ワクチンの接種をした方が良いと考えられます。（図3）

図3 感染年齢によるB型肝炎の経過の違い



※参考（引用）：国立研究開発法人国立国際医療研究センター肝炎・免疫研究センター肝炎情報センター HP [http://www.kanen.ncgm.go.jp/forpatient\\_hbv.html](http://www.kanen.ncgm.go.jp/forpatient_hbv.html)

残念ながら、今回の定期接種では2016年4月以降生まれの1歳未満のすべての子どもが対象となるため、それ以外は任意接種（有料）となります。（相模原市医師会 野々山 勝人）

### 休日・夜間の急病診療制度の利用

まず、かかりつけの医師に相談してください。かかりつけの医師が不在、近所の医療機関で診療が受けられない方は

☎042-756-9000  
相模原救急医療情報センターへ  
お電話してください。

午前9時 午後1時 午後5時 午前9時



#### 市民のみみなさんへお願い

- ◇診療可能な医療機関を案内します。
- ◇医療相談・歯科案内は行なっていません。
- ◇急病で困ったときに利用してください。
- ◇**応急診療**が目的ですので、翌日はかかりつけの医師または近所の医師の診察を必ず受けてください。
- ◇健康保険証を必ず提示してください。されない場合は自由診療扱いとなり、費用が高額になります。
- ◇救急車は、生命に危険が生じた患者さんを一刻も早く運ぶためのものです。安易な利用は避けてください。
- ◇歯科の急病については休日急患歯科診療所 ☎042-756-1501へ（ウエルネスさがみはら2階）
- ◇服用している薬がある場合は、お薬手帳もしくは処方された薬をお持ちください。

